

♪ シニア便り ♪



第 4 号 (2004年8月発行)

発 行 北海道シニア吹奏楽団 事務局

編 集 『シニア便り』編集部

第十回定期演奏会終了後の役員会（十一・九）の席上、次期定演実行委員会に五名が立候補し、私が委員長に就任致しました。小さな組織とはいえ、全員が立候補というのは、すばらしいことです。このメンバーならきつと楽しく定演の準備が出来ると確信しました。以来、かなりの頻度で委員会を開催し、中村副団長、佐藤事務局長、吉田現企画委員長、勘米良理事ら重鎮各位の応援も戴きながら今日までやって参りました。規約改定のことなど、いささか拙速気味であり、また少々実行委員会の枠を逸脱した感もありますが、シニアの発展を願うメンバーの熱い思いにご理解を戴きたいと思えます。通常総会もなんとか無事に終え、後は事務局長と共に、定演に向かって全力投球と思つていた矢先です。一寸先は闇といいますが、正に諸行無常、先の事は判りません。佐藤事務局長の突然の訃報（五・十三）です。ほとんどの団員が葬儀に参列してくれました。中村副団長の弔辞、吉田さんと久光さんによる合作の弔電は、無念と動揺の中にも佐藤さんへの深い感謝とシニアの発展を願う団員全員の気持ちが入められた、胸に迫るすばらしいものでした。ショックの大きさを考え、林団長にその事を伝えたのは、六月十六日のことです。

後任の事務局長を選任しなければなりません。役員の見直しを感じました。兼任は避けるべきですが、空白は許されませ

んし、定演の準備にも支障をきたします。私が残りの任期を事務局長代行として勤めることに覚悟を決めました。皆さんが、私の非力と僥倖は承知の上できつと助けてくれると思つております。尚、事務局長交代に関わる事務処理の全ては、完了しておりますのでご安心下さい。

定演の準備は、いよいよ正念場です。皆さんへの報告、連絡、お願い等は、実行委員会だよりで詳しくお伝えしますが、この場では次の四点を、特にお願い致します。

一、チケット販売のお願い

ひとり五枚以上は、ぜひ売上げて下さい。決してノルマではありませんが、極力頑張つて下さい。宮の森小では、十人で五十枚を引き受けて下さいました。

二、集客のお願い

いずれば、かでの客席五百席を満席にしたいものです。多くの友人知人に声をかけて下さい。また、集客のアイデアがありましたら、ぜひお寄せください。

三、プログラムの広告

四十五ミリ×七十五ミリ二千円の広告を各パート二件以上の目標で声をかけて下さい。知人や馴染みの店など、必要なら呑み会の二次会に押しかけましょう。

四、パークシヨンの募集

正規の団員はもちろん、エキストラも必要です。候補者がいたらご報告ください。

定期演奏会は目前です。楽しく練習し、

楽しく準備をし、楽しい本番を迎えましょう。林団長の言葉です。「リハビリは辛い。でも、歯を食いしばって頑張っている。みんなの顔を早く見たいから。当日の客席には、きつと大きく手を振る林団長の、お元気な姿があるでしょう。」

色々ありました。が、重責を兼任することになりました。人は分別以上の権限を持つと、とかく暴走するものです。プレキ役はぜひ皆さんにお願いしたいと思います。事務局をほとんど使つて下さい。私、酷使に耐え「無」で参ります。

『企画委員会からお願い！』

企画委員長 吉田 和夫

我がシニア吹奏楽団も二十年で団員四十名を超える大所帯となり、更に十回の定期演奏会を経験するまでに成長した。その成長を支え、育てて来たのは、創設者であり北海道吹奏楽界の重鎮である林団長と、指揮者である中村副団長お二人の熱意と熱心な指導によるものである。林団長並びに中村副団長に対する畏敬の念を忘れてはならない。

シニアはその主旨の通り、吹奏楽を愛好しかつての合奏経験を再度活かしたいと願う人達をもって構成されている。それ故に、年齢差は然り、家庭に納まった人、退職して中年になった人、現に職に就いて活躍している人など多種多様な集団である。これがシニアの特徴といえる。このユニークな集団をどうまとめていくか、その任に就く人の苦勞は大なるものがある。

この複雑多岐に亘る団体の運営・管理にあつたの最も必要なことは、如何にして団員の意思や意向を掌握するかが極めて重要な課題である。この複雑な団構成に起因すると思われるが、ややもすると相談・協議なしで又団員が納得しないまま事が進む、処理されることを危惧する感がある。そんなことを心配する心ある人達が、その対応策として創設以来の規約改定に取り組み、改定案は先の総会で承認された。

改定規約では、団の運営・管理に最も重責を負う役員会を軸とし、団の在り方等について検討する機関として新たに企画委員会を設け、当年度の演奏会開催の全てを取り仕切る機能を持った実行委員会、団全体の運営・管理に参与する事務局という体制にした。これらの機関は、相互に連携を図りながら与えられた課題を責任を持って処理することにより、これまで以上に団運営・管理の透明性が確保されるかの考えにほかならない。

企画委員会は、規約細則に定められた所管事項、即ち一、団の基本となるべき姿について、二、新しく入団を希望する者の選考について、三、団の収支状況の掌握について、四、その他となっている。又委員の構成は、役員及び団員から五名以上をもって構成することとなっている。

先般、第一回の企画委員会を開催した。委員には、コンダクターとして中村暁生氏、コンサートマスターとして阿部重氏、役員会から勘米良、二六生氏と久光秀樹氏を、団員から吉田を選任した。又委員会

を代表する者として吉田を選出した。

この委員会において討議・検討した事項は、次のとおりである。

一、団の基本姿勢について

団の目的にある「技術に偏らず音楽を楽しむ団員相互の親睦を図る」に沿ってそれぞれ意見を述べた。

一つの方向として、技術差を縮めることは難しいが、各人努力を重ねることが必要である。しかし、その技術差を負担に感じたり、気後れなどの意識を持たせまいようお互い仲間意識を持つとともに、楽しい雰囲気を出す努力をして、いかにシニアを永く続けさせるかとの意見でまとまった。

二、新しく入団を希望する者について

まず、面接担当を久光氏と吉田とし、入団意識調査を行い、当該パートの意見や企画委員会の意見を付して役員会に諮り決定することとした。

三、団の収支状況について

団の収支状況については、十月・三月に事務局からその状況の説明を受けることとした。

四、その他について

○ パートリーダー制について
パート毎にリーダーを選出する。リーダーは、パート内の意思の疎通を図るとともに企画・実行委員会等からの諮問事項に意見を述べること。

○ 練習について

練習については既に実行されて

いるが、出欠確認表の記入、練習時間割の設定等により、従来よりも明るく楽しい雰囲気になりつつあると思われる。皆さんはどう感じますか？

楽しい雰囲気づくりは、それぞれの知恵と工夫と気配りではないかとの意見でまとまった。

○ 副指揮者制について

現指揮者の負担の軽減を図ることと、異なる指揮による演奏を経験することも必要でないかとの意見であったが、今後慎重に検討することとした。

○ 親睦の方法について

これまでの毎月の呑み会に少し工夫を凝らし、もっと楽しく、もっと多くの人が参加できるように知恵と工夫が必要との意見があった。

このほか、楽譜の管理や会議等が可能なスペースを確保すべきとの意見もあつたが、その必要性は痛感するも財政的見地から格安で安全が確保できる物件探しはなかなかむずかしいものがある。情報があれば提供願いたい。

以上、企画委員会で討議・検討した主要な事項について述べた。いずれにしても、シニアは団員皆さんの団費と総意により維持運営されていることと認識し、団の運営・管理に関心を持つとともに、積極的に提言・提案・意見・苦情等を企画委員会に寄せられるよう期待しお願ひする。企画委員会の活動に皆さんの御理解と御協力をお願いする。

『私の吹奏楽雑記帖』

副団長・常任指揮者 中村 曉 生

(一) 移動ド

第二次世界大戦中に小学校、戦後の混乱期に中学・高校時代を送った私にとって吹奏楽はまったく無縁の存在でした。学校には足踏み式のオルガンと何ヶ月も調律していないピアノが一台講堂にあるだけの音楽環境で、本物の管楽器を触ることはもちろん見る機会もなく過していました。

高校一年の春、音楽好きの先輩の努力が実って音楽部（合唱部）が創設され、友人に勧められるまま入部しました。その動機はまことに不純なもので、中高一貫教育の男子校の生徒たちにとって同じ市内にある女子高に公然と出入りできるのは演劇部と合唱部のメンバーに限られていたからです（セーラー服姿の女子高生は眩しく、憧れの存在でしたから）。女子高の音楽の先生は上野の音楽学校（現在の東京藝術大学）声楽部を出た新進気鋭の女の先生で、混声合唱団を育てることに熱意を燃やしていました。毎週金曜日の放課後二時間半、女子高の音楽室で練習をしていましたがその大半はソルフエージュ（金原君を見て歌うこと）で歌わせるのです。

移動ドというのは、調性音楽で例えばイ長調であればAを下、へ短調であればDをラと読んでいく方法で、それを高音部譜表、低音部譜表の両方で徹底的にシゴカレました。大勢の女子高生の前で聴

をかきたくない、カッコンヨク見られたい、その一心で帰宅してからも通学の電車の中でも個人練習に励んだものです。

そのことが後に自衛隊音楽隊の採用試験を受けたとき、実物の管楽器を初めて見た私がソルフエージュ満点の成績だけで五倍強の難関を突破して採用になり、現在もスコアを読んだり楽譜を書いたりするうえで大いに役に立っています。

中村（同姓でした）先生、ありがとうございませう。（以下次号）

『初仕事を終えて』

トランペット 近藤 学

今回、初めて『シニア便り』の編集を担当しましたが、ことの始まりは五月の親睦会の席で、前担当者の久光さんから『シニア便り』の編集をしてくれないか？という依頼があつたことでした。あまりに突然のことで驚いてしまいました。私自身は昨年の定期演奏会終了後に入団してからまだ日が浅いので、一日も早く皆さんとなじむためにも良い機会ではないかと前向きに考え、引き受けさせていただきました。久光さんからは創刊号から第二号までの『シニア便り』を提供していただいたのですが、予想以上に充実した内容でさらに驚きました。ひととおりの目を通しましたが、中村副団長の連載企画「私の吹奏楽雑記帖」は第二号に一回目が掲載されたままになっていきますので、今後とも副団長の協力をいただきながら継続したいと考えています。

さて、連載の一回目に取り上げられていた「軍艦行進曲」については、キングレコードから資料的価値の高いCD「軍艦マーチのすべて」が発売されており、オリジナルのみならず、ピアノ、ハルモニカ、琴と尺八、ダンスミュージック、ハワイアンギターやエレキギターなどの種々の編曲や、三島由紀夫指揮の読売日本交響楽団など、二十六種類の演奏が収録されていて解説書も充実しています。副団長が言及されていたボリドール盤の「軍艦行進曲」ですが、一九三八年まではこの作品の著作権を日本ボリドール蓄音器株式会社が所有していましたので、同社からはこの作品のレコードが多数発売されました。同社はドイツ・グラモフォンのレコードを国内生産する目的で設立されましたが、当初は国内に録音施設が無かったため、楽譜をドイツに送って現地の優秀な軍楽隊に録音させ、それを国内で販売する方法を採っていました。副団長が幼少の頃に耳にされたレコードもそうした背景から生まれたのではないかと推察するにつけ、CDに収録されている音源がより身近に感じられるようで感慨深く思います。

さらに付け加えますと、同社はオーケストラを使って「軍艦行進曲」と「敷島艦行進曲」を録音する企画を立て、アロイス・メリハルという指揮者に編曲と指揮を依頼して一九三五年にベルリン・フィルとの録音を行い、翌年一月に発売されました。ベルリン・フィルと言えは、

♪練習日のお知らせ♪
定期演奏会までの練習日は、次のとおりです。できるだけ参加しましょう。

8月	8	13時～16時
	22	13時～16時
	29	13時～16時
9月	5	13時～16時
	12	13時～16時
	19	13時～16時
10月	26	13時～16時
	3	13時～16時
	10	10時～17時

※ 練習場所は「オークラホール」(札幌市東区北24条東18丁目)です。
※ 日程や練習場所に変更が生じた場合はその都度お知らせします。
【定期演奏会の日程】
月 日: 10月11日(月・祝)
会 場: かでる2・7ホール(札幌市中央区北2条西7丁目)
* 終了後、反省会を17時30分よりワシントンホテルで行います。

チューニング広場

十六年度の運営体制は次のとおりです。また、定期演奏会に向けた実行体制も決まりましたので、あわせてお知らせします。

芸術監督のサイモン・ラトルとともに来日して十一月には札幌公演も予定されていますが(チケット代の高額なことに驚いた方もおられるでしょう)、録音当時はフルトヴェングラーが常任指揮者の地位にあつたわけですから、その頃の制作システムの産物とはいえ贅沢な起用ですね。閑話休題、久光さんからバトンを引き継いで初めて完成に漕ぎ着けた『シニア便り』ですが、まだまだ至らぬところもあるうかと存じます。私としてはこの『シニア便り』が、幅広い年齢層のメンバーが集う北海道シニア吹奏楽団にあって、世代を超えて音楽を楽しみ、交流を深めるための一助になればと考えておりますので、どうか長い目で見守っていただきますようお願い申し上げます。

《参考文献》CD『軍艦マーチのすべて』(キングレコード)KICG2073(解説書P.P.10～11)

副団長 長林 正輝
副団長 中村 暁生
事務局長 渡辺 順三 (常任指揮者・企
事務局長 高橋 章子 (実)
理事 阿部 薫
(コンサートマスター・企・実)
出野 実月 (実)
勸米良 二六生 (企)
久光 秀樹 (企・実)
監 事 花野 瑞穂
前谷 浩市
《企画委員会》
委員長 吉田 和夫
※企Ⅱ企画委員
※企Ⅱ定期演奏会実行委員
(平成十六年八月一日現在)

親睦会のお知らせ

特に昨年の定期演奏会終了後に入団された皆さんとの親睦を図りたいと考えております。どうぞお気軽にご参加ください! 詳細は幹事よりお知らせします。
・8月幹事は小西さんです。
・参加申し込み、問い合わせは幹事までどうぞ。
★今後の担当幹事★
9月～田中さん 10月～吉田さん
11月～菊田さん 12/11(土)～忘年会: 村山さん

《編集後記》

『シニア便り』第四号、いかがでしたか? まずは、原稿を寄せていただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。
前回の発行から月日が経過し、担当者も交代しましたが、皆さんに親しんでいただける紙面づくりを心がけてまいりますので、ご愛読・ご協力のほどよろしくお願い致します。また先のことと思っていた定期演奏会も、あと二ヶ月となりました。お互いに協力しあい、充実した楽しい演奏会にしましょう。(編者)

